

文書名	鞍手郡諸家古文書 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学法学部
撮影年月日	昭和56年 7月 16日
福岡県文化会館	

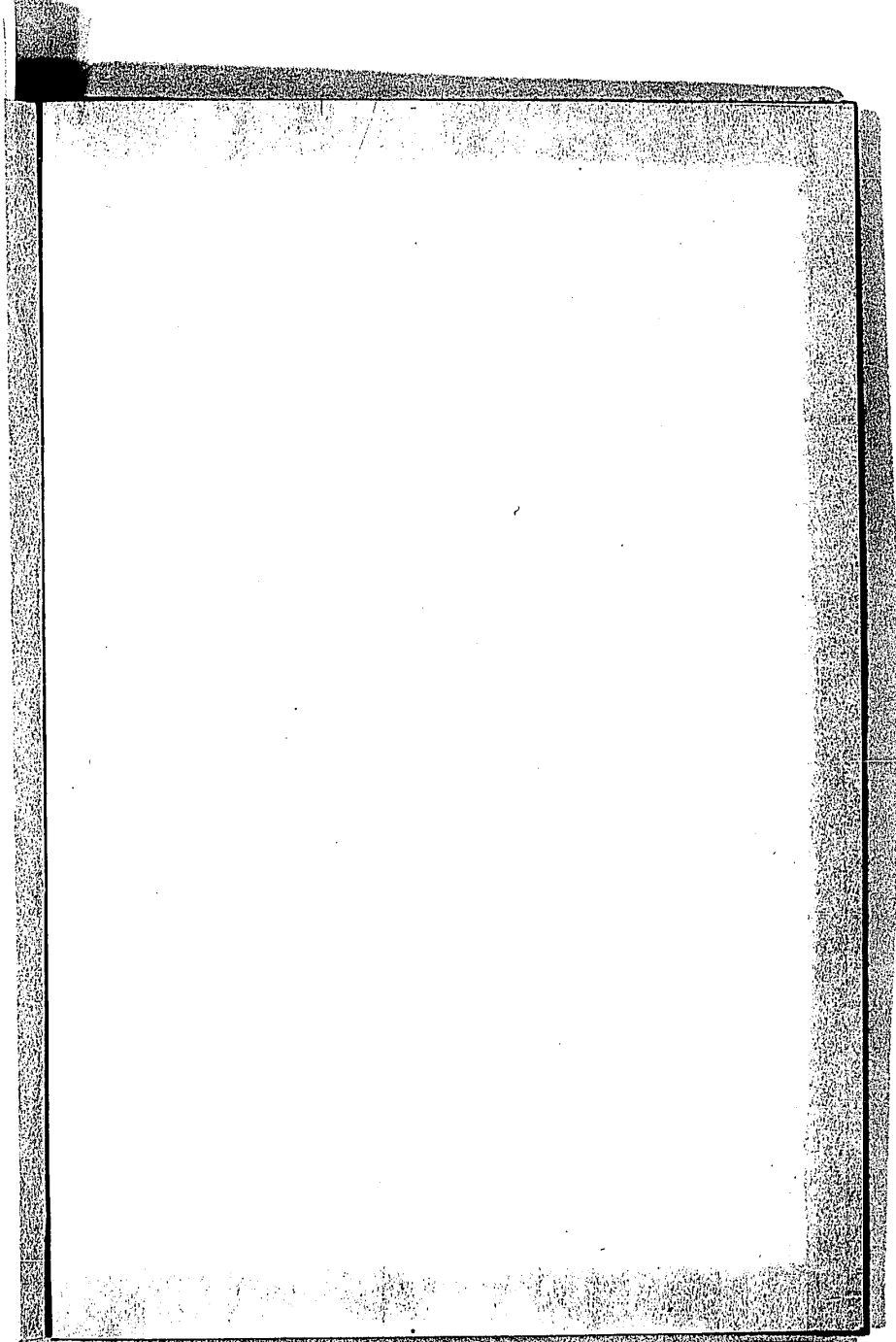
鞍手郡諸家古文書

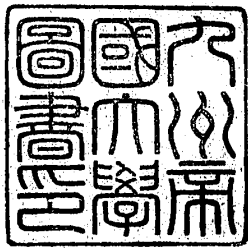
Kj 18

K

152

鞍手郡諸家古文書





大村氏 系藏

小田氏

勝屋氏 系藏

有吉氏 石井氏

原田氏 杉氏

下境村藏

西鶴岡村西合身塚起

鞍手郡古文書二

大村氏 小田氏 勝屋氏 有吉氏

石井氏 露田村 露田村 原田氏

杉氏 下境村 祇園社

諸家古文書 鞆子部

大村姓系譜

大村高節入道多良公感類

遠祖御間名國王爾利父年王統也

欽明天皇初而賜多良公姓

整類乎正壽院被加同姓大村遠定

彼之系乎被下自是代為大村姓止

大村姓之遠祖也天道根命古世孫

若續命之後胤也

大村三郎右衛門経家

大村五郎

大村五郎右衛門尉

大村式部九郎 大村安房守

大村周防守 大村清部九郎

大村八郎

大村五郎三郎 大村経理進

大村下總守 大村法部左衛門

大村藏人 大村治部少将

大村千代書亮

伯父三郎右衛門保世書亮子  
今春子守郎重綱

大村左衛門 大村右衛門

大村和泉守 大村七郎

大村主計元 — 大村主計正

大村藤左衛門尉

大村新左衛門尉 至高野山傳成  
号号覺上人

大村源三郎 — 大村源四郎

大村小五郎

大村源重綱

實事源四郎尉三男  
幼名千代尉重綱

大村日向守重継

自法泉寺破可為諸代相續  
之令即列原戴子  
大永七丁亥歲青月山王神夜之  
送字在當時之依主也

大村新左衛門重成

大村新左衛門尉家親  
實二重成三男

偏寺権

實事源四郎尉三男

大村兵部五郎重一

大村木之元輔家

實事源四郎尉  
柳嶋宗博神  
定門  
四月二

大村兵部佐兵衛家



得

大村氏部平家藏

大村二郎長景

大村雅樂佐重時

大村孫四郎

大村去光

大村實盛丸

大村右衛門家長

春の澤軒

大村吉康又與景

大和より大和川山王送智之願王

大村形部玉重満

大村孫五郎高種

大村兼壽丸

大村又四郎家昌

大村孫左衛門輔隆

河内國輪子郡服田村住位

延喜五年丁丑十一月丁酉卒

大村孫左衛門輔長

享保九年甲辰年二月二十日卒

大村彦右衛門

仁年公白丁卒

大石伊助

大村の波郎

大村文四郎大丸

大村源久の補吉

大村源久の輔昌

宝曆三年癸酉五月十五日  
元文元年十月辛

大村清助家時

大村清助家成

女 日即金生村善七妻

安永申二月廿二日辛

大村清治

大村清助

女 日即金生村善七妻

女 日即金生村善七妻

大村善吉

大村勲平

大村清助

大村善四

女 角舟

大村作七

作七

大村善代治

女子

水島村善七妻

作平

大村善作

安永三城月

女子

大村源孫

女子

与作

大村善之助

大村善吉

大村勘平

女

大村角下

大村良平 早世

女

大村惣作 猪蔵

享和三年八月十一日 子本三歳

女 金巻村嫁

大村幸助

享和二年九月九日 七十一歳

大村幸助

享和二年八月十一日 子本三歳

大村高平 川口村住

女 土居村住

大村英吉 猪蔵

女 小浜村寄文七歳

大村保右衛門 輔長

大村進吉

大村岩吉

右系同祖目村下地保右衛門

川原の草花

花のつぼみ

あまのつぼみ

坂の草花

此書院子古蹟幸有故  
老之遺感入心其所以勸  
忠志之必也其一故之也  
其教所及也

中回子集

前不亦言者有之  
其所以也列之  
其所以也列之  
其所以也列之  
其所以也列之  
其所以也列之

中回子集

乃之由之湯系村浦其代字也  
所也

毛利氏 膳屋 下村信人

寺之免 一 廣免 一 高免 一 公重

分記

大迫 十 五

經免 一 經免 一 經免 一 經免 一

一 時記 一 記 一 師 記 一

廣元、光元、興元、由元、弘元

興元 子世

光元 子世

興元 子世

由元 子世

元統

弘元 子世

少元 子世

仁元 子世

刑部 定元

仁元 忠元

仁元 定元

仁元 定元

仁元 忠元

仁元 定元

仁元 定元

仁元 忠元

仁元 定元

仁元 忠元

神元 定元

神元 忠元

付申元知

信お佐美問始

女子 子のあま

あま

あま

しらの元文 — 次書初集 —

女子

あま

しらの元明 —

あま

あま

中世様式にせよあまのあまのあまのあま

乃年田水太初入道成敗と別名行

一人計持まゝ。後ら音持まゝ

此は。新地信考し不取まゝ。

今そね。あまのあまのあまのあま

立丹あし。信考し不取まゝ。



下段長親承後純淨合下下

し

廿一

平井の地蔵

平井の地蔵

平井の地蔵

平井の地蔵

合

平井の地蔵

平井の地蔵

平井の地蔵

平井の地蔵

平井の地蔵

平井の地蔵



平井の地蔵

師範館長印



為扶助社

高初学社

万有学社

全可学社

学社

学社 ○

学社





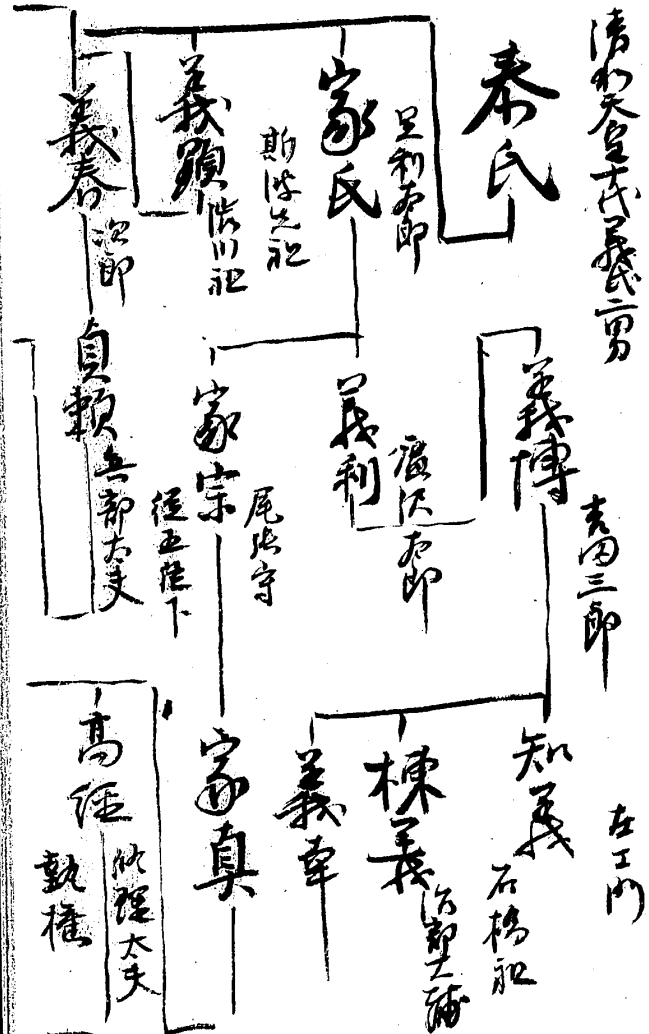


上月古字氏貞

有末海原元成

大橋便書子孫村以是而記所始

流石園石井系圖



信氏	貞春	範氏	仲義	義山	氏叔
----	----	----	----	----	----

賴遠 <small>右郎</small>	賴房	貞遠 <small>三郎</small>	義遠	賴遠 <small>中務大夫</small>	直於 <small>九条門侍</small>	義行
----------------------	----	----------------------	----	------------------------	------------------------	----

氏於 <small>左衛門尉</small>	義將 <small>左門侍</small>	義重 <small>子五番尉 左衛門尉</small>	義結 <small>左衛門尉</small>	賴重 <small>左馬助</small>	義重	高重
------------------------	-----------------------	---------------------------------	------------------------	-----------------------	----	----

賴茂 <small>四郎四男</small>	義分 <small>右丹波守</small>	義辨 <small>上侍 侍仰</small>	公保 <small>左衛門尉</small>	順室 <small>法皇</small>	基氏 <small>四男三男</small>
------------------------	------------------------	-----------------------------	------------------------	----------------------	------------------------

義季 <small>刑部大夫</small>	如子	範家	賴房	義春	貞遠 <small>三郎</small>
------------------------	----	----	----	----	----------------------

家重 <small>九条左大臣 左衛門下</small>	直持 <small>九条左大臣</small>	重賴	義持 <small>陸奥守</small>	家長 <small>左衛門尉</small>	氏信 <small>左衛門尉 九条攝政</small>
----------------------------------	-------------------------	----	-----------------------	------------------------	---------------------------------

直氏

氏重一偏直

範克

石氏部共結

範方

論克

偏身

滿

九也少臣

俊

此理

義種

義鏡

義克

論範

義種

此理大夫

滿種

氏部少補

義宗

九也少補

義卿

義敏

義佐

義極

滿範

持範

義範

義素

義春

成貴一賢實

長徑

存非在府門射

徑音石并氏徑九則下向而後暫其里代陷  
干爰石并長徑天山年申一撥輝起也節  
屬原田氏有戰切 秀貴公相輝征伐之時



俱列幕下有軍術

五河地事の始地免行

今知行所少件

天文八年正月晦日 隆程部

石井三右衛門

金部おのり位三右衛門

五河地事の始地免行一三右衛門  
如件

天文八年正月晦日 隆程部

石井三右衛門

加冠

長資

天皇御宇

御宇

御宇

御宇

御宇

天皇御宇

御宇

御宇

加冠

長安

天正七年五月十二日

了る

了る



勒石所  
雷鶴田村西合寺淨光寺緣起抄寫

流前新立部粥口法鶴田村與龍山寺僧師者  
人皇六十六代一條院長保三年五年為開基于時  
當即稱爲最之寺并曰十郎五緒者淨依佛道興  
志願長保三年春創立五ヶ伽藍其一曰西塔寺  
其二曰恩覺寺其三曰蓮宅寺其四曰感通寺  
其五曰宗元寺是也寬弘年中其切邊成天  
西塔寺也天台宗房粥田庄官司日本尊者行基

之作生像者八尺余之畫師如惠初在禪園畫  
之下其後徑百八十年至後馬羽院建自中自  
五德八代後亂朽者即寺內尉畫師有馬師家園  
賜三万余所之地築祇園寺改以馬師于茲時遷  
寺於今之地故址今為園而名之八十二代  
後鳥羽帝伊世皇而禱受勅後宋建久三年寺  
四月歸朝名如口州信多傳而錫法信創送聖神  
寺移成至千以多錫高而一寺法善朽氏隨法感嘆

而招彼五箇之僧徒而演心宗之玄妙然彼僧徒等  
固執左道不移故朽氏諱頑而塔寺之亂後者  
而直謂當于時亂後問師之所說佛法如何榮  
而曰吾所信者已身佛身佛祖不信教外別傳不立  
文字直指人身心見性成佛之法而佛項上之法者佛  
心一宗也亂後隨表為弟子通改名宗為心宗  
後建曆三年二月廿五日叙万回代後土原門院  
延原之頃畫師十一代朽氏後寺興行之時九所大  
亂興行原于思崇城之殿氏後為大内氏之麾下

築執考城而稱位之與行病而新平倉而增華飾  
有勝於是病寺于城良隔鎮鬼門瑞興龍山龍  
泉寺又彫刻華飾方像為天將神之本地道八情  
位天將像為相敬祀之此係本坊保唯一之信所村上地  
天將神者所謂  
四天王也 百三代之後在良院京祿年中移居  
寺自是即奉此聖廟方  
與行世男者為小 感夢而移營於四里山至  
后已因而改執泉寺為淨行寺龍泉之地今為紫竹社  
堂一殿全之土若因每月八日十二日暨百二十塔其  
久于今有之永正年中住僧圓名特建鐘樓

平地之時忽穿穴於金佛之孫院生像長八寸余者  
靈驗殊勝所繫之洪鐘者亂世被奪盜人今宗  
像即朝所村信神祠所懸之鐘是也 或言其所上  
有木村境內

盜人隱匿之于朝所村 鐘銘同  
氏信得之字附神誌

香井田北興龍山龍泉寺 奉施入建三十  
九卷園林

文龜三卷方歲施主 杉豐屋後寺興行  
六月吉符日

大内宗威而後重五之嫡子授號連王天下中唐  
秋月種實所領城少者就改歸守勅原勅原  
村丸山改無幾往天正十年年也去其嫡子十六郎  
連諸位千種實同十五年病日白濁子歸于今  
衣德園之同十六年四月十日於野武寺多勢  
札入寺中奪付室盜竊財法法警警賊主多勢  
人放火佛殿而去將取去本尊大像而繫個像  
三四人控之稍得免失由東之間堂中畫棟檣

自茲園興為念佛堂寺淨光寺移寺山王社之東春  
金係海院為本尊佛海院寺于時元和九年十一  
月也以此二十一世同興為當寺因基實文而年甲  
十月改之西念寺以金佛室像為本佛別安一  
像為本尊今本尊是也云佛師興可防我可知我  
淨光寺是葉師像依懷殊極村民等相議拓獨園  
佛師為所歸之于時佛師佛見曰彼像之價新金  
三十兩村民不能辨情所刻新佛僅長座光三  
天者藏古像之頭於新佛之頭中之佛軀換金



後禱木下有年元禄中本寺の住持は後禱佛能  
而為斥而為之萬以三年春有日即掛持持  
忍故有能書不知其生也持持為手持持重  
男教訓忍故持信科金佛而持守是書去  
金佛之厨不知其所遊厨中仙在口彼之持  
與行重重遊遊等之書遊女及信記之金佛  
被接取之亦遊の持の類也

杉氏系圖

延喜帝之時宗像清成公下向風禁之時以部者  
見成者為原其通子孫見丸為香井田司補天將  
神之社職其嫡子伊丸其息十郎五緒其時改古部  
乃香井田氏  
其息十郎五為其息太郎五貞其息十六郎五保其  
子亦七郎五春其息亦太郎五房其息亦九次衛門五改  
其息亦高六傳重緒其時改古部  
乃香井田氏  
新三郎重任其息新左衛門重成其息新左衛門重光

子治郎の重宗其の末代御門重興其の末代連重親其  
子治郎太夫重行其の末代太夫重康其の末代太夫重  
其の重康其の重行其の重康其の重康其の重康其の重康  
連緒

○六十代一峰院長保三年時開基清寺退去信所記  
西塔寺関山月念初為二世同慶三世同禱四世真念五  
世諦淨六世執澤七世増念八世放智九世龍溪十世  
了慶十一世洞永十二世來住十三世法月十四世法慶  
十五世永岩十六世永住十七世觀山十八世通知十九  
世同林廿世同岩廿一世同興此代の  
真宗廿二世同信廿三  
世同祐廿四世同恭

平時の京三の重月方 并西の同奉祝月禮記





知明

實、字、曰、思、有、婦、名、着、焉、乃、子、水、山

字、曰、天、淵、別、号、必、隣、軒、ト、云

知直

知、直、字、曰、直、ト、云

字、三、者

女子

水、山、妻、ト、云

女子

字、曰、色、是、常、美、也、即、婦、ト、云

女子

即、死、之、後、水、山、妻、ト、云

知定

字、曰、中、立、別、号、金、屋、侯、又、子、思、遠

尚賢

字、曰、通、情、別、義、泉、本、德、也、即、婦、ト、云、早、世、ト、云

如子

名、曰、節、勝、也、并、有、田、五、石、即、婦、ト、云

下段附註  
前國潮日庄地產經理會社南社會同啟

事

查房九所

右件九所地產者查其地產所有權人曾代租得  
可補也查該地產今亦屬地產死後可租地產房  
地產之產無非地產之產其地產所有權人  
地產地產所有權人及地產所有權人及地產所有權人

入領知者其行況非分權死也行軍國法部  
地產所有權人及地產所有權人及地產所有權人  
地產所有權人及地產所有權人及地產所有權人

建武九年三月十日

為發啟

一、海峽東洋の地味と地味と

一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と

一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と

一、海峽東洋の地味と地味と

一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と

一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と  
一、海峽東洋の地味と地味と





